

# あいち国際女性映画祭 2015

昨日のトークから

デイリーニュース vol.2 (2015/9/2)

## 『蝸ノ記』

小泉堯史監督

女優

原田美枝子さん

聞き手

野上照代さん



「黒澤明監督の美学を受け継いだ小泉美学とっていい作品ですよ。」と黒澤組の野上さん。恐縮しつつ小泉監督は、「僕はセットとロケの関係やキャスティングの重要性など黒澤さんの教を今も守りたいと思っています。原田さんとはいつか是非にと思っていた夢が叶いました。髷を切るところから先、セリフなしで表情だけで万感の思いが表されていて、何度見ても感謝しています」。原田さんは、「小泉監督って、準備は長いけれど現場では早く終わるんです。それがもったいなくて。もっと撮っていたいのに(笑)」。原田さんは『乱』で黒澤組を経験。「25歳でした。30年前(笑)。今、しわとか気になる年頃ですが、小泉監督は「人間にも熟成があるんです。」と言ってくださって、生きてきた全部を肯定的に写し取っていただいていると思い、こちらこそ感謝しています(笑)」と、同窓会のようなトークでした。

## 『塹壕143』

ショーレ・ゴルパリアンさん

「この映画は何回観ても泣いてしまいます。」と感極まって涙ぐんでいたショーレ



さん。「女性監督が書いたとは思えないくらい鋭い画が撮られている映画です。イラン・イラクだけの問題ではなく、一人の人間の姿が描かれており、日本人の心にも刺さる映画だと思います。『人生は絨毯のようだ』と言われるように、絨毯を織りながら息子の帰りを待ち続ける母オルファトの時は止まっていました。しかし、息子の死を受け入れ、絨毯を切るラストシーンは、一つの事が終わり前に進んでいく強い女性の姿が描かれていますよね。」最後に、「もっとこの映画を世界に、そして、もっと日本の女性は積極的に力強くなってほしい。」と語られました。

## 『マルガリータで乾杯を!』

シヨナリ・ボース監督

女優 カルキ・コーチリンさん



お二人は、それぞれ伝統衣装とインドの刺繍をあしらった服に身を包み、観客の質問に丁寧に答えました。「16歳で亡くなった息子の17歳の誕生日を祝いたい」と脚本を書き始めました。カルキさんの笑顔が、主人公のイメージ通りで、すぐに出演を依頼しました。」と監督。カルキさんは、「今までの私のイメージを破る役で、また、障がいを持つ人たちの気持ちを理解することにもつながり、人生で一番の挑戦になると思って、是非出演したかったのです」。しかし、監督は、「でもその時、彼女は他の映画に出ていたの、他の女優にも声をかけました。しかし、この役に全身全霊をかけてくれるのはカルキしかいなかったのです」。そんな監督の期待にカルキさんは応え、障がいを持つ身体役作りを徹底し、脳性麻痺の主人公を演じきりました。

## 『ギフト』

リンダ・ホーランド監督

「今NYに住んでいるのですが、街で出会った犬たちの飼い主に聞くと100%捨てられてレスキューされた



犬でした。彼らは捨てられたのにもう一度人間に対して信頼というギフトをくれたんですね。そこで思い出したのが、人間が傷ついた鶴を救い、鶴は恩返しに布を織り、でも人間はまた約束を破ってしまうという「鶴の恩返し」です。でも私は哀しい結末を変えたくて、鶴居村で鶴を餌付けする93歳のLadyを持ってきました。彼女は鶴を救いましたが、鶴は過疎の村を救いました。取材場所を決める基準は私の心です(笑)。あと、ご縁ですね(笑)。映画の基本は「美しいこと」です。坂本龍一さんやヴァネッサ・レッドグレイヴさんも協力してくださり、映像だけでなく、音楽・音響効果・イラスト・ナレーションにもこだわりまくった珍しい構成の作品になりました」

## 明日の見どころ

名古屋が舞台の挑戦ドキュメンタリー

**「日本一幸せな従業員をつくる！」** ウィルホール/18:10~20:00 \*監督来場

この作品の舞台は、名古屋駅前に実在するホテルアソシア名古屋ターミナルです。4期連続の赤字経営の中、新たな支配人のもと、リストラでも、成果導入でもない再建築が行われました。合宿で全従業員が夜を徹して語り合った夢は「日本一幸せな従業員をつくる！」こと。地元名古屋で練り広げられるパワー溢れるドキュメンタリーを是非ご覧ください！



©Heart of Miracle. All Rights Reserved.

20回記念スタート企画

**「フィルム・コンペティション 長編フィルム部門」** 大会議室/10:00~、13:00~、15:10~

新進気鋭の女性監督の登竜門を目指して、今年からフィルム・コンペティションに長編フィルム部門が新設されました。ノミネートされた6作品のうち3作品が初日に上映され、盛り上がりを見せました。明日は『養女物語』『彦とベガ』『けんじ君の春』の3作品を上映します。どれも日本初公開又は愛知初公開の作品ばかりです。各作品の監督も来場します。お楽しみに！



ノミネート作品『けんじ君の春』

## まつかわゆまの耳寄り情報

**『ハノイ 危険な青春』15時40分よりウィルホールにて上映**

経済成長著しいベトナムのハノイ。経済的な格差が開いてくると成長に取り残される人々も出てきます。本作の主人公は、電気工事労働者トゥンと付き合っている女子大生フェン。妊娠したフェンは中絶費用を稼ごうと売春に手を出します。何かとフェンの力になるのは同居人のトランスジェンダー娼婦リン。フェンは客になった裕福なビジネスマンのホアンとの倒錯したSEXに彼との結婚を夢見ますが…。社会的にどん底にいる存在とされるリンから肉体労働者のトゥンと、豪華な生活を送るホアンの間に宙ぶらりんになっているフェン。何が自分にとっての幸せなのか「選択ができる自由」があるようすでなくなっている社会を、リアルなストリート生活と幻想的な上流生活の対比で描き出します。倒錯したSEX・ジェンダー・経済格差などの社会主義国で仏教国でもあるベトナムのタブーに果敢にも挑む作品です。

## 今日のプログラム

4階 ウィルホール

10:00~『シアター・プノンペン』

\*上映後トークショーあり

13:30~『女性大使ミーティング』

18:00~『カナ 夢を織る女(ひと)』

\*上映後トークショーあり

3階 大会議室

10:00~『少女は自転車にのって』

13:00~『フィルム・コンペティション

(短編フィルム部門)』全12作品

(ノミネート作品10作品/招待作品2作品)